諺教材を使った日本語上級授業の試み

浮　田　三　郎

1.　はじめに

日本語教育の場で使用される様々な教材や様々な教材を使用した授業とその方法，そしてそれらの結果や効果に関しては，既に色々なところで論じられている。ただ，それらの多くは初級レベルの授業に関するもので，中級，上級のレベルの授業に関するものは，それ程詳しく述べられていないようである。

ところで，日本語学習者を単純に初級，中級，上級などとレベル分けすることに問題があるということは，折りにふれ述べられている。例えば，学習者の学習時間は，レベル分けのひとつの目安にはなるが，それが必ずしも絶対的なものではないし，どのようなプレイスメントテストでレベル分けをするか，またどのようなクラス（クラスの数，教官の数なども問題である）にグループ分けするかにも問題がある。このように不安定な現状でクラス分けをしなければならないという条件の下では，したがって，学習者を初級，中級，上級と分けることは易しいことではない。そして，それらの編成されたクラスの中には，日本語の能力の差が大きいだけでなく，様々なバックグランドや目的を持つ学習者が混在しているのが実状である。それ故，上級のレベルのクラスといっても，色々な授業の仕方が考えられなければならない。

そこで，本稿では，上級レベルの日本語の授業に焦点を当てて，授業の仕方や教材の色々を考え，その中で，「諺を教材として使用した授業」をした場合，どのような有効な方法が考えられるか，また，どのような効果が上がるかを検討してみる。

2.　日本語上級授業の色々

上でも述べたように，日本語の上級レベルのクラスでも色々な授業の形態や仕方が考えられるが，まず，そのような上級レベルの日本語の授業の形態と，そこで使用される教材の色々を考えてみよう。

1）教材の色々

例えば，

(1)　文学作品（詩・歌を含む）

(2)　古典文学作品

(3) 通俗小説

(4) 新聞の社説などのコラム

(5) 諺

(6) 漫画など

(7) 絵，写真など

(8) 日本文化あるいは日本事情に関するテーマ（を与えて討論）

(9) 簡単な随筆などの作文を書かせたもの，その表現や内容など

(10) ＶＴＲなどの映像と音声を利用した諸教材

(11) 劇のシナリオ

(12) コンピューターを利用した諸教材

などと様々であるが，これらにも種々の長所や短所がある。それを簡単にまとめてみると，例えば，次のようになろう。

2）授業の形態と長所・短所

(1) 文学作品を利用する場合

短編，長編があるが，長編は通して読むには長すぎる。短編・長編とも，内容はあるがそれ故難解である。作品に対して興味を持つ人と持たない人の個人差が大きい。詩や歌（俳句，短歌等）も興味がある学習者には良いが，個人差が大きい。

(2) 古典文学作品を利用する場合

日本の古典文学を理解するのには有益であるが，表現解釈が難しい。作品中の表現は現代の日本語の表現法にすぐに役立たない。興味を持つ人が多くない。

(3) 通俗小説を読む場合

短編，長編があるが，長編は（特に教室では）通して読むには長すぎる。内容が一般的で俗的で，読み易く理解し易い。作品中の表現の多くは日常会話にも役立つ。その反面，内容的に貧弱な場合も多い。作品に対して普通に興味を持つ人と持たない人の個人差が小さく，文化系，理工系を問わず比較的多くの学習者が興味を持続する場合が多い。

(4) 新聞の社説などのコラムを読む場合

情報が最新の場合が多く，多くの学習者が興味を示す。社説などは少し難解な場合がある。政治的なコラムは問題になる場合があるので，クラスの構成員によっては充分な配慮が必要である。

(5) 諺を利用する場合

凝縮された比喩表現の中に日本の文化や風俗を読み取ることができる。色々な比喩表現の学習ができるが，全ての比喩表現が学習者にとって利用価値があるとは限らな

いし，古めかしい表現や難し過ぎる表現がある。短い表現で完結しており，学習者にとって取り付き易い。逆に，それ故，難しいという者もいる。

加えて，川柳なども取り上げると面白い。

(6) 漫画などを利用する場合

会話練習などによい。楽しく進めることができるが，内容的に貧弱な場合もある。

(7) 絵，写真などを利用する場合

スピーチや会話の練習に有益である。視覚に訴えることができ，生き生きとした表現を習得することができる。

(8) 日本文化あるいは日本事情に関するテーマを与えた場合

日本文化や事情に関するその時々で学生が興味を持っているようなテーマを与えて討論をさせる。スピーチや会話の練習，表現力の研磨に良く，討論を通して日本を理解することができる。

(9) 簡単な随筆などの作文を書かせたもの，その表現や内容などを利用する場合

学習者に，簡単な随筆などの作文を書かせ，それを発表してもらう。また，その表現法や内容に関して討論をする。スピーチや会話の練習，表現力の研磨に良く，討論を通して学生相互の理解を深めることもできる。

(10) ＶＴＲなどの映像と音声を利用した諸教材

視聴覚に訴えて，状況に応じた生きた表現を身につけることができるが，ややもすると，映像に引かれ過ぎて，日本語の言語的表現がおろそかにされがちになることがある。映像と音声を通して，日本文化・事情の理解を深めることができる。

(11) 劇のシナリオを利用する場合

劇の中の役になったつもりで台詞を覚えて，場に即した表現練習をする。劇を演出してみることもできるが，役回りによっては（台詞の少ない役の人など）無駄な時間を費やすことになり，学習意欲を失うことにもなるので，充分な気配りが必要である。

(12) コンピューターを利用した諸教材を使用する場合

色々なプログラムを利用して，個人個人がそれぞれ時間的に無駄のない練習をすることができる。さらに，これからのオフィスワークにも役立つ。しかし，コンピューターの使い方を習得するまでに時間がかかるし，プログラムの作成や購入の問題もある。

以上，それぞれの特徴，長所と短所を大まかに指摘してみたが，もちろん，これらの教材あるいは授業形式を色々と効果的に組合せて利用することも考えられなければならない。それには，また，プログラムに割り当てられる授業時間数，クラスのサイズ，クラスの構成員などが充分に考えられなければならない。クラス中の学習者のバックグランド（学習者の既習時間，出身国等）は，充分に考慮されなければならない

であろう。

3. 諺を使った授業

さて，そこで，上述したような教材を使用した授業の中の一つ，「諺を教材として使った授業」の場合，どの様な授業（仕方）が考えられるであろうか。また，その結果どのような授業効果が上がるであろうか，といった点に焦点を当てて，これまで筆者が広島大学で実践した結果やいくつかの考察の結果も参考にして，検討してみよう。

ところで，諺の定義あるいは何を諺として認め選ぶかということも重要で困難な問題ではあるが，ここでは，その問題に深入りすることはさほど有意義ではないので立ち入らないことにする。と言うよりも，既にいくつかの有益な諺集が出版されているので，それらを利用すれば便利である。日本の諺に関しては，筆者はひとまず金子武雄（1982，83）で取り上げられている諺を利用することにしており，これは実に有益である。もちろんその外にも，尚学図書（1984）などの有益な諺集があり，これらも大いに活用することも肝要である。

さて，諺を教材として使用した授業の特徴と長所や短所は大ざっぱに2で指摘したが，それを踏まえた上で，諺の利用の仕方をもう少し詳しく考えてみよう。そこで，まず，授業の方法と形態を大きく分けて挙げてみると，例えば，

ア）日本の諺の全体的な印象を解説する（日本以外の国の諺の全体的な印象と対照比較すればなお有効である）

イ）より多くの諺を読み，解釈と討論を試みる

ウ）いくつかのテーマに関する諺を選んで読み，解釈と討論を試みる

エ）学習者に興味のある諺を選んで解釈して貰い，どうして興味があるかをも述べて貰う

オ）日本の諺と関連した学習者各々の国の諺を紹介してもらい，その解釈と対照比較をしてもらい討論を試みる

などのような仕方が考えられるが，さらに，個々について詳しく考えてみよう。例えば，

1）ア）の場合

いくつか方法は考えられるが，例えば，金子（1983）を利用するのも有効である。また，筆者が以前考察した（cf．浮田，1987，88，89，etc）日本とビルマの諺あるいは日本とギリシアの諺に使用されている素材（単語）の出現頻度やその使われ方の対照比較を利用して解説すれば，さらに，それぞれの諺の表現の特徴とその背景にある自然や文化や風俗などがよりよく分かり，有意義な教室作業ができる。その資料に，

例えば，上記の考察（浮田）から，日本語，英語，ビルマ語の諺の中に使用されている素材の出現頻度を調べたものを次のような表にして，紹介する。そのことにより，それぞれの国の庶民の文化や風習などがどの様に異なり，どの様な点で類似しているかを討論し，そこから日本の自然，文化，風習などの理解を深めることができるであろう。

〔表１〕　日本語

順位	事項（単語）	回数
1	子	36
2	人	35
3	言（う）	24
4	親（父2，母1）	17
5	心	16
5	食（う）	16
5	見（る）	16
8	女	14
8	目	14
8	馬鹿（阿呆1）	14
8	金（銭5）	14
12	立（つ）	13
13	男	12
13	寝（る）	12
13	我（ワレ1，オレ1）	12
16	知（る）	11
16	出（る）	11
18	口	10
18	手	10
18	身	10
18	風（風邪2）	10
18	死（ぬ）	10
23	山	9
23	花	9
23	世	9
23	病（む）	9
23	火（火事1）	9
23	盗人（盗む2）	9
23	鬼	9
30	物	8
30	水（水練1）	8
30	焼く	8
30	泣く	8

（諺総数　666）

〔表２〕　英　語

順位	事項（単語）	回数
1	fool	357
2	love	273
3	friend	268
4	horse	261
5	{woman / women}	250
6	good	246
7	dog	245
8	devil	236
9	wife	229
10	wise	214
11	god	213
12	money	198
13	word	193
13	house	193
15	eye	178
16	day	173
17	hand	171
18	head	165
19	heart	164
20	water	158
21	wind	132
21	fire	132
23	fish	130
24	wine	128
25	master	125
26	cat	123
27	{child / children}	122
28	mouth	117
28	time	117
30	king	116
*	{life / live}	213

（諺総数　不詳）

〔表３〕　ビルマ語

順位	事項（単語）	回数
1	食（う）v. 26	30
2	水	28
3	人間	26
4	知る	23
5	良い	22
6	大きい	19
6	いる，ある	19
8	貰う	18
8	牛	18
10	象	14
10	犬	14
10	息子	14
13	木，植物	13
13	出る	13
15	火	12
15	金（gold）	12
15	果物	12
15	トラ	12
19	自分	11
19	魚	11
19	見る	11
19	死ぬ	11
19	行為者	11
19	雨，空	11
19	女性	11
19	行く	11
27	生きる	10
27	幸運	10
27	壊れた	10
27	先生	10
*	鳥（種々の）	28
	鳥7，鶏6，烏6 燕4，クジャク3 etc.	

（諺総数　496）

〔表４〕　ギリシア語

順位	事項（単語）	回数
1	女，妻	24
2	食う	18.
3	水	14
4	家	13
5	火	12
5	山羊	12
5	雨が降る	12
8	知る	11
9	頭	10
9	神	10
9	播く	10
12	聖（者）	9
12	母	9
12	子供	9
12	手	9
12	パン	9
12	ロバ	9
18	豚	8
18	狐	8
18	ブドー酒	8
18	眼	8
18	牛	8
18	収穫する	8
24	狼	7
24	犬	7
24	猫	7
24	友人	7
24	口	7
24	戸	7
24	山	7
24	百	7
24	悪魔	7
24	太陽	7

（諺総数　500）

そして，例えば，これらの表から，読み取ることのできる特徴を少し述べてみよう（詳しくは，浮田，上記の考察参照）。日本と英語の諺，日本とビルマの諺，日本とギリシアの諺などと，個々に対照比較してみることも面白いが，全体的には，例えば各言語の諺に共通してよく使用されている素材は，「子，女，火，水」であることが指摘できる。また，その中でも，「子」の使用に関しては，日本的あるいは東洋的だと言うことができる。

あるいは，日本の諺の中によく現れ日本的な特徴のある素材は，「身，山，花，世，盗人」などと指摘できるであろうし，日本人の山とか花に対する愛着を指摘することができる。

また逆に，日本の諺にはさほど見られなくて，他の国の諺に特徴的な素材では，英語の諺の場合は，「love，friend，horse，king」等，ビルマ語の諺の場合は，「牛，象，トラ，金，魚」等，現代ギリシア語の場合は，「山羊，聖者，友人，パン，羊，ブドー酒」等と，指摘できるであろう。

2）イ）の場合

どのような諺を選んで読むかということは大きな問題ではある。例えば，金子(1982)を利用すれば，これまた便利である。ただし，日本の代表的な諺として見出しに挙げてあるものだけでも600個以上あり，教室作業でこれら全部を読んで行くことは非常に難しい。したがって，その中からできるだけ多くの諺を選んで，読みと解釈と討論を試みる方法が最も一般的で有益である。そして，やはり学習者自身の国の諺をそれと対照比較して貰うと教室作業は益々活発になる。

3）ウ）の場合

この場合も，例えば，金子（1983）を利用すれば有効なテーマを選ぶこともできるが，クラスを構成する学習者の状態に依っては，1)で見た表の中から読み取れる日本的な特徴を持った諺を選んで，テーマを決めて授業を進めるのも有益である。また，このような表を利用して，日本と学習者の母国間での諺における素材の使い方や比喩表現の違いや類似点を学習者に発見させ，そこから授業に必要なテーマを彼らに選んで貰い，教材を用意するのも有益である。

4）エ）の場合

この場合は，特に学習者の自主性が大変重要になる。彼らに教室作業に参加する積極的な姿勢があれば，討論形式の授業あるいは演習は非常に活発になる。そして，そうした議論（討論）の中から学習者（外国人留学生等）が日本，日本文化，庶民の考

え方等をどのように捉えているか（捉えようとしているか）が教師の側にも分かり，教師にとっても有益な授業になる。そして，相互の理解が深まれば，これからの日本語教育を含めた外国人留学生の教育や生活指導等にも役立つであろう。

5）オ）の場合

この場合もウ，エと関連しているが，学習者の母国の諺を日本語の諺と対照比較することにより，両国間の諺の表現の違いや類似点を見い出し，さらにその背後にある自然や文化や風習などの違いや類似点を見い出し，活発な討論へと進むことができる。また，学習者がお互いの国の諺の起源をよく知らないで，ある諺の対照比較を試みようとする場合もあるが，これは，また格好の討論の種になることもある。例えば，『英語の諺に「Blood is thiker than water」というのがあり，これは日本の諺「血は水よりも濃し」というのと同じである』などと発言する者がいたが，そうすると，「それは，メキシコにもある」などと発言が続く。このことに関しては，日本語の表現は，本来は日本の諺ではなく，英語の諺から取り入れられたものだということが，討論の中であるいは説明を通して分かってきたりする。そして，日本の諺には，「血は血だけ」とか「他人は時の花」と言うのがあるなどと紹介したり，説明してやる。もちろん，学習者がそれを見つけ出せば大変良いのであり，そうなるように適切な助言や方向付けをしてやることも肝要である。また，対照比較に際しては，上でも見たように，日本とビルマの諺，日本とギリシアの諺などのように個々に詳しく検討してみても面白い。但し，余り詳しく検討していると，時間が足らなくなるであろう。

このように，諺を通して日本語の色々な比喩表現と日本の自然や文化や風俗などを学ぶと共に，討論や発表を通して彼らの日本語の表現力を磨くことができる。

4. 日本語と日本文化

さて，今度は，諺を通して学ぶことのできる日本語の表現と日本文化（事情）に，焦点を当てて簡単にまとめてみよう。

1）日本語の表現法

(1) 使用されている単語素材

日本に限らずそれぞれの国の自然や文化や風俗や習慣などの背景を考えることのできる特徴のある素材を見ることができる。そして，それらを対照比較することにより日本的な素材を考えてみることができる。

(2) 修辞法

諺に見られる修辞法には，日本の諺に限らず独特の表現法がある。それを簡単に挙げてみると，

① 表現が短く簡潔である
② したがって，文の構成要素の色々なものが省略されている
③ 調子が良い
④ 対句的表現が多い（類義的，対立的）
⑤ 素材の取り合わせが面白い
⑥ 直喩表現
⑦ 隠喩表現
⑧ 反語表現
⑨ 誇張表現
⑩ 教訓的な内容を持つものが多い
⑪ 一般的な真理や社会の実態を述べている
⑫ 人間に関して，人情の機微を述べたり人間を批判したりするものも多い
⑬ 反対の内容の諺が共存している

などの特徴があり，修辞法と共に洞察力を研磨することができる。

(3) 表現力

素材や比喩表現や内容などに関する討論や発表を通して，日本語の自然な発音やイントネーションの練習もできるし，日本語の表現力を養うことができる。

2）日本文化と日本事情

(1) 日本の自然

日本の自然条件，地理的条件，気象条件，動植物などの状態，特徴を考えてみることができる。もちろん，学習者の母国の諸事情を対照比較することにより，日本的な特徴あるいは日本の諸事情をより鮮明にすることができる。

(2) 日本の歴史

諺の中には様々な風物や考え方が表わされており，それらを考えてみれば，日本の歴史の一端を考察してみることもできる。また，諺の中で現在は私達が現実に見ることのできなくなった物事に触れることもでき，それによって，歴史の移り変わりを理解することができる。

(3) 日本の文化

「日本の諺の一つ一つが日本文化である」と言っても言い過ぎではないであろう。もちろん，上でも述べたように，諺の中にはもう既に人々の口には上らなくなったものも少なくないが，そのような諺の中にも忘れ去られてはいるが，未だに日本文化の

底流として考えることができるような考え方や概念を見い出すことができ，それらも日本の庶民の文化を理解するのに有益である。

(4)　日本の風俗・習慣

諺中に使用されている素材にも見て取れるし，処世訓的な諺や生活訓的な諺などによく表現されている。

(5)　日本人

日本人的な人情，親子の愛，男と女のあり方など特徴のある諺が多いが，これも，学習者の母国の諸条件，諸事情を対照比較してみることで，「日本人とは何か」という問いに対する答えを考えてみることもできるであろう。

5.　問題点と展望

ところで，３でも実践に基づく例を少し述べたが，実際に諺を使用した授業の場合の問題点に焦点を当てて考え，その展望も考えてみよう。

１）学習者の力

実際の教室作業では，学習者の力や彼らの予習が，良い授業ができるかどうかの大きな要素になる。

１，２でも述べたが，現実の上級のクラスでは，学習者間に日本語の力の差があり過ぎる場合もあり，そのような場合教室作業は思うようには進まない。経験に照らし合わせてみると，学習者が漢字圏出身か非漢字圏出身かは，問題になる場合もあるがあながち問題とはならない場合も少なくない。即ち，非漢字圏出身の学習者でも，日本語の能力を有し，日本語の諺に大いに理解を示し，積極的に議論に加わってくる者もいるのであり，学習者の日本語の力と彼らの諺に対する興味の持ち方が，教室作業に大きな影響を及ぼすと言える。彼らの日本語の力と主体性が重要である。

２）学習者の予習

次に，１）と関連して，学習者の予習と意欲はまた非常に大切であることも当然である。日本語の能力は重要ではあるが，日本語の能力が充分でなくても意欲があり予習を充分にしてくる学習者は，教室作業の中に何とか参加することができる。ただし所与のテーマからその外の話題に発展していくような討論には，充分に参加できない場合がある。そのような時には，教師が適切な指導をしてやることも肝心であり，それにより，彼らの討論参加が可能になる場合もある。

その逆に，日本語の能力は充分あるが（意欲もなく）予習をしてこない学習者が多

いと，当然教室作業は進めにくい。このような学習者の多くは，ある程度討論が発展してくると，内容を自分なりに整理して，討論に加わってくることもある。

諺の対照比較を試みて貰う場合には，予習はぜひともやって参加して貰わなければならない。

3）教師の能力

教師の適切な指導には今も少し触れたが，教師には，その場その場で適当な諺が引き出せる技量も必要であろう。参考資料を準備しておくことも必要である。

討論になった時など，話題が所与のテーマから余り横道に反れないように適切な指導をすることも肝心である。ただ，発展性のある話題や有益な話題へと進展する場合は，歓迎できる。

また，教師の方も，できれば色々な（できるだけ多くの）国の諺を予習しておくことも有益である。即ち，3でも述べたように，各国の諺を通して見られる諺表現の特徴，諺に使用されている素材の特徴，それらを通して考えられる各国の文化的背景などもある程度理解しておくと，様々なバックグランドを持つ学習者達の討論に，うまく参加することができ，適切な指導が可能になるであろう。

4）教室作業

ここまでの節でも触れたが，授業の仕方は，諺をどのように利用するかによって異なる。3で述べたことと多少重複するが，それを踏まえて教室作業に関してまとめてみよう。

(1) 3，ア（あるいはウ）の場合

① 金子（1983）のような諺集を用意し，講読する。

② 前述の表を提供してやる。

③ 提供された諺の中でどんな点が特徴かを討論していく。

④ 既版の諺集を用いない場合は，日本の諺の全体的な印象を考えた諺を資料として用意しなければならない。

(2) 3，イ，エ，オの場合

① 金子（1982）のような諺集を用意し，講読する。

② 最初は，説明や解釈などは与えないで，主要な諺だけを与えて充分に考えさせたり，自分で調べさせたりした後に，解釈と説明を与える場合も考えられる。

③ 前述の表のような資料も，どんな諺を選んで読み始めるかの指針にもなり，有益である。

(3) 3，エ，オの場合

① 上述のような資料を提供する場合もあれば，
② 学習者達に自分で調べた独自の資料（ハンドアウト）を用意させるとよい。
③ 資料がない場合には，発表者は，積極的に黒板の前に出て，調べてきた諺，類似の諺や反対の意味の諺を板書して，説明や解説をする。実際，意欲的な学生ほど生き生きとして教室作業に参加する。

6. おわりに

以上，上級レベルの日本語教育において，諺を教材として使用した授業の色々やその効果的な方法とその効果を，実践を踏まえて諸問題点を指摘しながら考察してみた。いくつかの有意義な指摘もできたとは思うが，なお様々な場面に即したそれぞれの対応策は，極論すればそれぞれ個別に異なっていると言わざるを得ない。ここで検討した「諺を使用した日本語上級授業」方法は，日本語上級授業の一つの基準になるであろう。

参考文献

池田三郎，ドナルド・キーン監修　『日英故事ことわざ辞典』，朝日イブニングニュース社，1982

石垣幸雄　『世界のことわざ・1000句集』，自由国民社，1986

浮田三郎　「“water”が使用されている諺と比喩表現」，『Lilium』第3号，広島文教女子大学英文学会，1984

浮田三郎　「日本語教育における諺の教材化のための基礎研究」，『中国四国教育学会教育学研究紀要』，第32号，1987a

浮田三郎　「日本語とビルマ語の諺対照比較研究(1)」，『広島大学教育学部付属共同研究体制・研究紀要』第15号，1987b

浮田三郎　「日本語とビルマ語の諺対照比較研究(2)」，『広島大学教育学部紀要』第2部，第36号，1987c

浮田三郎　「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究－諺に見られる素材を中心に－」，『言語修得及び異文化適応の理論的・実践的研究』，広島大学教育学部，1988a

浮田三郎　「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究(2)－素材「女」の見られる諺を中心に－」，『広島大学教育学部紀要』第2部，第37号，広島大学教育学部，1988b

浮田三郎　「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究(3)－素材「水」の使われたる諺を中心に－」，『広島大学教育学部日本語教育の理論と実践』，広島大学教育学部，1989

奥津文夫　『ことわざ・英語と日本語』，サイマル出版，1978

小野忍，宮内秀雄，三木孝編　『世界のことわざ辞典』，永岡書店，1975

金子武雄　『日本のことわざ』（全4巻），海燕書房

（一）評釈，（二）続評釈，1982

（三）評論，（四）概説・講説，1983

関本至　「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」，『レトリックと文体』（古田敬一編），丸善株式会社，1983

尚学図書編集　『故事俗事ことわざ大辞典』，小学館，1982

外山滋比古　「渡る世間に鬼はない<ことわざと論理>」，『月刊言語』Vol. 12，№1，大修館，1983

滝沢寿一　「石のMetaphorik」，『広島大学文学部紀要』，第33巻，1974

滝沢寿一　「石のMetaphorik(続)」，『広島大学文学部紀要』，第34巻，1975

古田敬一編　『レトリックと文体－東西の修辞法をたずねて－』，丸善株式会社，1983

Arthaber, Augusto ; *Dizionario Comparatio di Proverbi e Modi Proverbiali, In Sette Lingue*, Uliko Hoepli, Milano, 1981

Βενιζέλου, Ι., *Παροιμίαι τοῦ Ἑλληνικοῦ Λαοῦ*, Φοιτητική Γωνιά, Ἀθῆναι, 1965（『ギリシア民衆の諺』）

Κολιτσάρα, Ἰωάννου Θ., *Παροιμίαι τοῦ Ἑλληνικοῦ Λαοῦ*, Α', Β', Γ', Ἀθῆναι, 1964－65（『ギリシア民衆の諺』）

Μιχαήλ, Μαρία－Δέδε, *2500 Ἑλληνικές Παροιμίες (καί Λεγόμενα)*, Σπῦρος Ν. Μπογιάτης, Ἀθήνα, 1984（『2500のギリシアの諺』）

Rohlfs, G., *Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen Dialekten*, München, 1971

Smith, William George ; *The Oxford Dictionary of English Proverbs*, The Clarendon Press, Oxford, 1952

Τριανταφυλλίδη, Μανόλη Α., *Παροιμιακές Φράσεις ἀπὸ τὴν Ἱστορία καὶ τὴ Λογοτεχνία*, Ἀθήνα,（『歴史と文学における諺』）